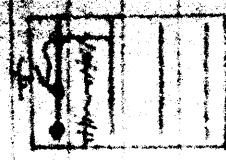


大抵 樹木は 根の 生長に 依りて 生長す 根の 生長は 土中の 水分と 養分と によりて 生長す 根の 生長は 土中の 水分と 養分と によりて 生長す



ト又 然レテ 側枝 概ネ 四本 通過トス 然レテ 側枝 概ネ 四本 通過トス 然レテ 側枝 概ネ 四本 通過トス

ト又 然レテ 側枝 概ネ 四本 通過トス 然レテ 側枝 概ネ 四本 通過トス 然レテ 側枝 概ネ 四本 通過トス

ト又 然レテ 側枝 概ネ 四本 通過トス 然レテ 側枝 概ネ 四本 通過トス 然レテ 側枝 概ネ 四本 通過トス

ト又 然レテ 側枝 概ネ 四本 通過トス 然レテ 側枝 概ネ 四本 通過トス 然レテ 側枝 概ネ 四本 通過トス

ト又 然レテ 側枝 概ネ 四本 通過トス 然レテ 側枝 概ネ 四本 通過トス 然レテ 側枝 概ネ 四本 通過トス

ト又 然レテ 側枝 概ネ 四本 通過トス 然レテ 側枝 概ネ 四本 通過トス 然レテ 側枝 概ネ 四本 通過トス



注意 植付直後 直射日光ヲテケルナク 草薙 對シ保護スルコト 灌水ヲ十分ニヤルコト

八月五日 晴 畑 茄子 採り 一斗前 進行 要又  
八月十日 晴 畑 茄子 採り 一斗前 進行 要又  
八月十五日 晴 畑 茄子 採り 一斗前 進行 要又  
八月二十日 晴 畑 茄子 採り 一斗前 進行 要又  
八月二十五日 晴 畑 茄子 採り 一斗前 進行 要又  
八月三十日 晴 畑 茄子 採り 一斗前 進行 要又  
九月五日 晴 畑 茄子 採り 一斗前 進行 要又  
九月十日 晴 畑 茄子 採り 一斗前 進行 要又  
九月十五日 晴 畑 茄子 採り 一斗前 進行 要又  
九月二十日 晴 畑 茄子 採り 一斗前 進行 要又  
九月二十五日 晴 畑 茄子 採り 一斗前 進行 要又  
九月三十日 晴 畑 茄子 採り 一斗前 進行 要又

久人工交配

人工交配 行 畑 茄子 採り 一斗前 進行 要又  
但 運 中 鮮 味 佳 熟 ず 成 功 無 三  
ト 多 以 時 間 約 一 時 間 程 度 経 過 花  
粉 貯 留 量 多 量 産 生 九 時 前 運 入 最 良 上 人

八茄子

入 整 地 乾 然 差 二 三 十 樣 可 上 故 持 一 堆 肥 十 分 又 レ  
テ 水 分 多 保 持 可 也 有 意 考 察 要 又

之 播 種 及 移 植

十 月 上 旬 一 月 上 旬 之 定 植 之 此 間 本 島 三 天 一  
回 移 植 行 間 之 本 島 三 天 一 回 移 植 行 間 之 本 島 三 天 一



ヲ可トス

本莖、尖端ハ摘心セズ要スルニ無意味ニ行ハス適當  
ナラザルヲ以テ繁茂程度ヲ顧慮スルヲ要ス

ト更生法

木が古クナリ結実低下セル場合或ハ風害、為枯一死、  
廣アルニ到リタル場合等ハ行ヒテ効果アルヲ認めムンケ  
ル但効肥料トシテ硫酸、人糞、灰等ヲ施肥スルヲ  
可トス



新芽

1. 根元ヨリ切斷ス

2. 根本ヨリ新芽カ発育シツマル場合ハ

其レヲ助長ス

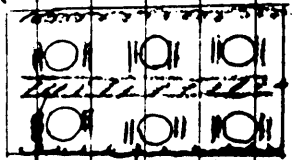
カト

一 整地 良ク土壤ヲ風化スル

二 播種 九月下旬ヨリ十月中旬ヲ商期トス

三 一回移植シテ本畑一植ルハ移植ハ五六寸位在者  
シタ時行ク

三 施肥



一 二株植ルニテ葉ヲ養フニテ  
 二 支柱ニテシテ新葉シテ一回ノ肥料ヲ  
 止肥トスモ可ク

三 第三回月ノ施肥ハ結実相増スル  
 第四回月ノ施肥ハ

四 第二回目ハ花芽芽カキテ可ク

4. 摘芯第一枝ノ花芽カ出テ頃下ノ葉ヲ切落ス

ニ本立トスル時ハ花芽ノ下側枝ヲ残シテ余

育セシム

5. 注意 トマトハ何レノ場合ニ於テモ第一回目ヲ確定ニ

結実セシムルヲ要ス

全般ニ苗ノ作り方(強イ苗)摘芯及施肥が最大  
切ナリ

朱砂ノ日無視ノ生命を授けし中下有根を自  
の生命を生かすに即ち徳を為す事なり

其年を以て 勝つて心算なり  
其年を以て 勝つて心算なり

Handwritten Japanese text in vertical columns, possibly a manuscript or ledger. The text is heavily obscured by a large, dark, irregular ink blot or smudge that covers the majority of the page's content. The visible characters are sparse and difficult to decipher, appearing as vertical columns of small, dark marks. Some faint characters are visible at the top and bottom edges of the page, but the central portion is almost entirely blank due to the ink blot.

附錄

各書所載

法三神效

一疏

效甚

然

了

反

不

生

生



此書乃... 卷之... 第... 頁... 一

二 厩肥

家畜ノ糞草 飼料残物 及 糞尿トノ混合ヨリ腐敗

醱酵セシメタルモノニテ有機物ヲ含ミ土壤ノ性質ヲ改良

シ地質力ヲ増進スヘキ貴重ナル肥料ナリ

一年ノ産出額ハ取扱良好ナル場合ニ於テ牛一頭ニ

山羊三ニテ豚一ニテト得

厩肥ハ且糞出堆積シ切返シ後ヨリ腐敗セシメテ施

用ス堆積ハ舍内ヲ理想トスルモ野積ニテモ管理良好

ナレバ支障ナシ其高ハ五尺内外トシ材料先ツ一尺位

堆積シ踏圧シシテ流水ノ汚染ヲ防グ堆積踏圧シテ水

ヲ反復実施スルニテ五ニテ一ニテ腐敗ヲ防グ

被覆スニ二三週間後ニ行ハシムルニテ

十割ニテノ利ニテ得

...

...

ナリ可成子... 本島大... 吾... 下... 百人... 五... 百人... 十日... 十日... 百人... 百人...

外... 前後... 尚堆積... スルハ... 本肥料... スラ以... 粘且硬... 膨軟ニ... ニス... スルヲ...

同...

100% 堆肥 200% 堆肥 300% 堆肥  
 100% 堆肥 200% 堆肥 300% 堆肥  
 100% 堆肥 200% 堆肥 300% 堆肥

四 堆肥

堆肥ハ厩肥ニ相似タルモ材料ニ家畜ノ糞尿ヲ混入セサルヲ異ニス野草等ヲ得其他動植物ノ糞尿料成分ヲ多少ニテモ含有スルモノヲ堆積取扱モノナリ而シテ其堆積取扱法ノ異同ニ準ス

五 鶏糞

三要素及有機物ヲ含ミ本島ニ於テハ貴重肥料ニ採糞ニ便ナル如ク鶏舎ヲ作り毎朝採糞シ糞ニ依リテ貯藏ス施用ニ際ハ之ヲ擴ク徐ク口ニ啣ケテ細粉トナリ施用ニ極メテ便利本肥料ハ直接作物ノ根種子ニ

追肥等ニモ適スヘク特ニ蔬菜栽培ニ於テ亦  
 水桶等ニ入レ約十倍ノ水中ニテ腐敗セシモ追肥トシ  
 以テ用ザルモ肥効大ナリ  
 六本灰草水灰  
 大豆類ニ速効性ノ加里肥料ニシテ豆類芋類根菜類  
 烟草等ニ對シ肥効顯著ナリ亦牧園ノ効果モ大ニシテ  
 茄子トマト瓜類等ニ於テハカサナルモノナリ灰ハ毎朝採取  
 シ乾燥ヲ保テタルマ貯藏シ置キ濕氣ヲ避フルヲ要ス  
 アレモニヤ人糞尿鶏糞等ト混用ハ不可ナル故時期ニ  
 ニシテ用フルヲ要ス

七水燐  
 唯一ノ磷酸質肥料ナリ芋類ニ用レバ甘味ヲ増シ効果大

肥料

ナリ

以上各種肥料、特性を述べ、用ふるに要スル作物ノ種類

ニ適意セシムル下、肝要ナリ、即チ麦類ニ対シテ、第一ニ窒

素第一、燐酸、第三加里、如ク豆類ニハ、窒素肥料ハ、施ス

要ナリ、加里肥料ヲ以テ足ルシ、根菜類ニハ、燐酸及加里

肥料ヲ要ス

本島、如ク土壤重粘ニシテ、爾後ノ固結甚クシキ土地ニテリテ

ハ、特ニ堆肥ノ効果ニ待タサルヘカラス

多ク、少未熟ノ程度ニテモ可ナルヘシ

而シテ、先ク堆肥ヲ主体トシ、之ガ増産ト共ニ、土質ノ改

良ヲ図リ、之ニ若干、硫酸、人糞、尿、灰、鶏糞、等補助肥料

トシテ施用スルヲ可トスヘシ



海鳥

肥料

肥料

肥料

肥料

肥料

Handwritten text in vertical columns on the right page, including characters like 十, 八, 七, 六, 五, 四, 三, 二, 一.

Main body of handwritten text in vertical columns on the left page, starting with a circled character (possibly 〇).

Vertical text on the far left edge of the left page.

山ノ下ノ...

山ノ下ノ...

# 山ノ下ノ...

山ノ下ノ... 山ノ下ノ... 山ノ下ノ...

山ノ下ノ...



附錄

目次

一	本島於昭和十一年之經濟統計的觀察	一
二	附屬回數	二
三	本島來襲時景象之圖解	三
四	具體的對策二就	四
五	役二管理上之注意	五
六	作物之收穫時期一覽表	六
七	堆肥製造法	七
八	大東島家畜調查表	八
九	家畜防疫回診計畫表	九
十	家畜消毒計畫表	十
十一	家畜防疫回診計畫表	十一
十二	家畜防疫回診計畫表	十二

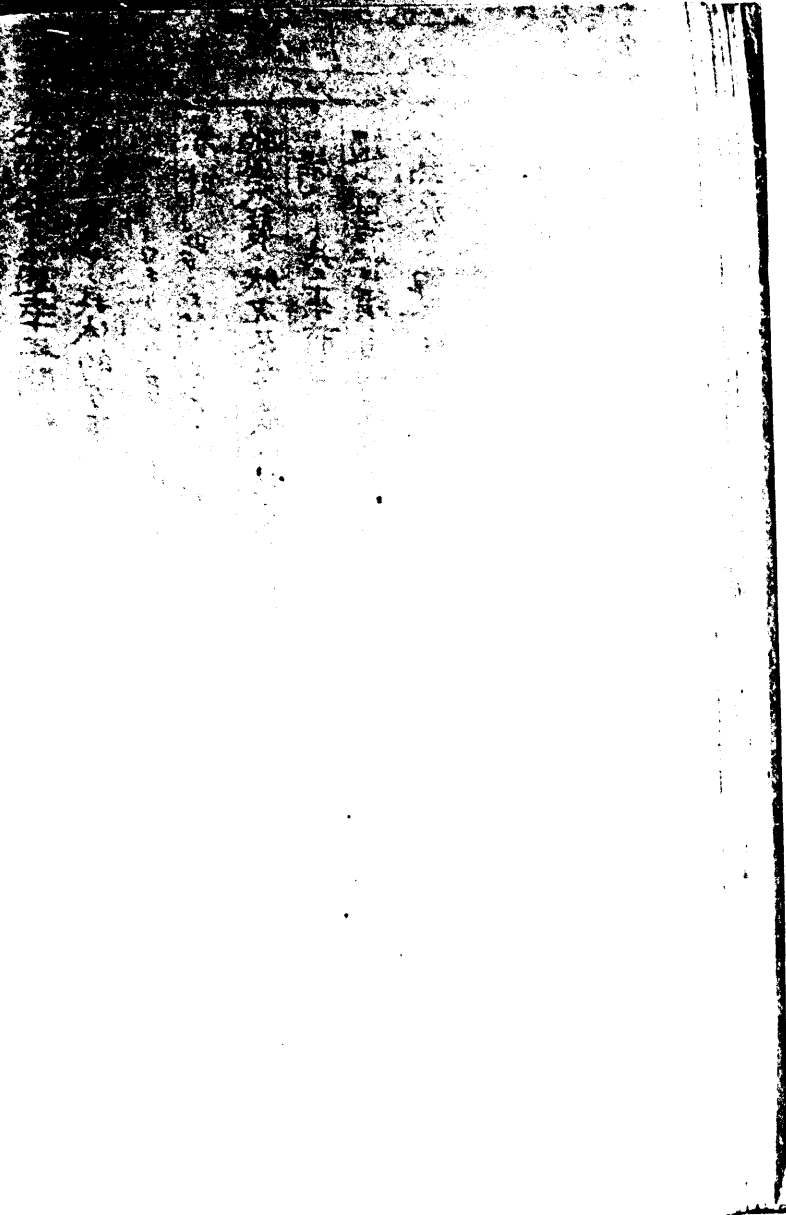
一	一
二	二
三	三
四	四
五	五
六	六
七	七
八	八
九	九
十	十
十一	十一
十二	十二

本島及南洋諸島間之統計ニ微シ如何ニテ颱風ニ對スル被害ヲ克服ニテ自活ヲ確  
立スルニシテ具體的方針策ヲ一テ カワシムルニシテハ勿クハ自島ノ自活ヲ大ニシテ  
南洋諸島ノ自活ヲハハ月ノ上トキコトシテ 年月ヤラウ月ノ上ニ日ニテハコトシ  
方針 略シテハエシコトヲ約シテカワシムルニシテハ自島ノ自活ヲ大ニシテ南洋諸島ノ自活ヲ大ニシテ

颱風災情状況及之ノ農作物ニ及ボス影響ノ審査ニ以テ颱風ニ對スル同列ノ對策  
ヲ講ビテ共ニ事前ニ適切ニ耕作方法並ニ掩護ノ處置ヲ考究シテ未然ニ被害ヲ防  
止シ自活實績ノ目的達成ニ遺憾ナラズ

本島於テ颱風統計的觀察  
本島東部ノ颱風性質

本島東部ノ颱風發生的ニ北太平洋、西部、大體ハ北緯實東方、南洋諸島  
ノ北方海上(東經一二五度ヨリ一五〇度 北緯〇度一ニ五度迄)ニ發生シ南北西ニ進  
行亦、南西諸島附近ニ於テ針路ヲ東北ニ變スル所謂北太平洋颱風ナリ



本行船路八月... 其時氣壓配置狀態應以...

中心... 本島附近通過... 限定... 得カレ...

... 於此... 氣壓... 船風... 船風...

船風襲撃期間  
平均六月初旬ヨリ十月下旬ニ至ル...

十一月初旬ニ及ス事ナリ

船風回数  
古平均期間ニ於テ概テ七回乃至九回平均七回程度ニテ...

多ク月二回平均ト判断セラル

12月 704号 300的甲 300的乙 300的丙 300的丁 300的戊 300的己 300的庚 300的辛 300的壬 300的癸

3

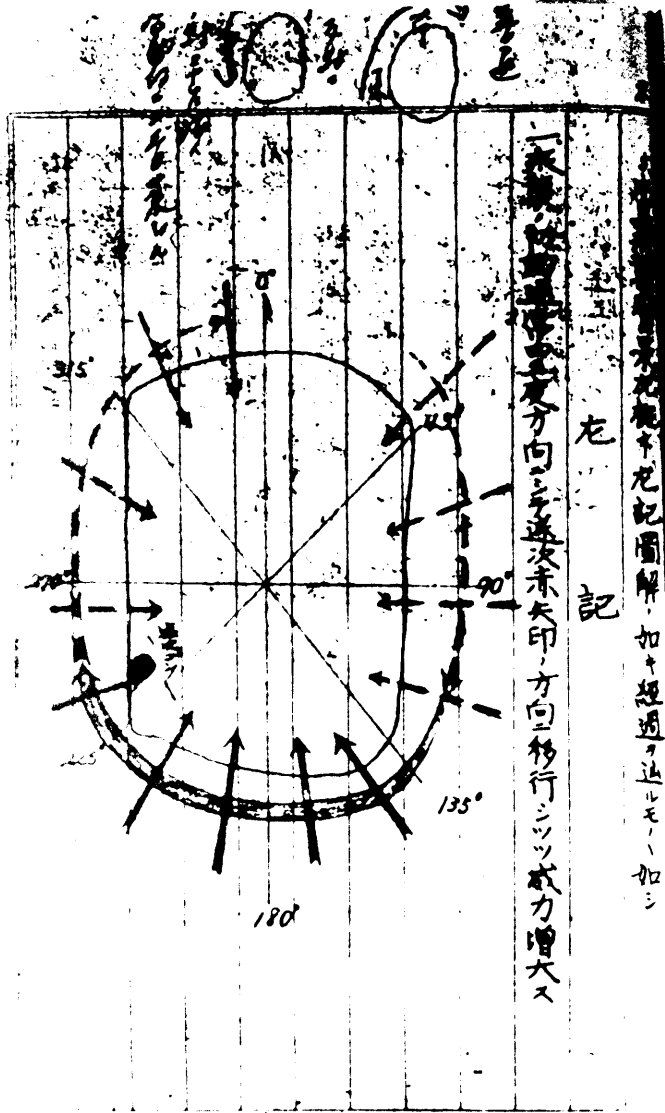
米二及三下アリ

4. 風速平均三五米程度以上瞬間的突風八四米位或力ヲ有ス極々稀ナルヲ示

計	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	1/4	1/2
1				1										15
1			1											2
4					1	2		1						3
2			2											4
3						1	2							5
1			1											6
3			1		2									7
1		1												8
4					1	1								9
4					2	1	1							10
3					1	1	1							11
4					1	1	1	1						12
1				1										13
1						1								14
1							1							15
5						2	2	1						16
1							1							17
1							1							18
3					1	1	1							19
42	1	2	7	11	13	7			1					計

(1. 極々稀ナルヲ示)

本島於此最近十年間來襲回数左表如



左記

天球の赤道を赤道とし、天極を北極、地極を南極とす。赤道より北へは北緯、南へは南緯とす。赤道より北へは北緯、南へは南緯とす。

如キ經過ヲ述ルモノ、如シ

風吹く所は力強く吹く

但し此二道は東方より北轉シ突故零度方向より極大ニ威力ヲ伴

フ吹テ南極ニ至ルニ至リ日本

備考

概テ南極ヲ伴フヲ以テ威風ハ甚ク相殺ス

ニ據テコシクハ名領ノ如ク極大ニ威力ヲ伴フ

空島ノ覆テ南極ニ至ルニ至リ

此風吹テ南極ニ至ルニ至リ

此風吹テ南極ニ至ルニ至リ

此風吹テ南極ニ至ルニ至リ

此風吹テ南極ニ至ルニ至リ

此風吹テ南極ニ至ルニ至リ

此風吹テ南極ニ至ルニ至リ

此風吹テ南極ニ至ルニ至リ

此風吹テ南極ニ至ルニ至リ

此風吹テ南極ニ至ルニ至リ

此風吹テ南極ニ至ルニ至リ

此風吹テ南極ニ至ルニ至リ

此風吹テ南極ニ至ルニ至リ

ハ夕焼朝焼の甚クドス黒ク見ヘル時

ニ海鳴アル場合

ニ具体的對策ニ就テ

1. 自活精神、昂揚

幹部以下兵士迄自活、重要性ヲ認識シ、常に兵學ナル努力ト研究ニ

勉ムルト共ニ強カニ實行性ヲ耐興スル如ク精神訓話又著作ニ必要ナル

學科講習會(專ラ實施ス、情操教育トモナレハシ)

2. 防風林ノ價値ト愛護

颱風、被害防止施策トシテ最大價値ヲ有シ、將來ニテ愛護増進農作

上極ニテ重要トシ、事ハ言フ俟タカル處ナリ、特ニ外周防風林、島内全盤

對シ暴風威力、封殺、鹹雨兩下、防止ニ極ニテ効果アリ、於テ然リ、亦ニ周

三周及幕内、ヤラス、防風林ハ、自ラ各局所々ニ於テ其價値ヲ有スルヲ

ハヤラス等如、繁茂カ大ナルハ切ニ保護スルヲ要ス

築橋其他資材トシテ採スルノ已キ時ハ良ク其價値ト及ボク影響ヲ  
無慮トシテ下雖モ混存スル如ク計畫的ニ實施セシメ之カ監督指導ヲ缺ラ

サル事肝要ナリ

防風林ハ輸兩被害ヲ防止スル範圍

防風林ノ高さ約二十倍ノ範圍(即チ高ヤ十米場合ハ二百米)ハ其被害ヲ

防止シ得ルト稱セラルヲ以テ基本地域ハ地味肥沃ト相待テ極ク價値

大ニ鑑ミ先ニ六月迄此地域ニ絕對確保ヲ要スル作物ト作付及敷對照

考慮上耕作メロ要ス特ニ全面的ニ被害ヲ受ケタル場合ニ於テ周遊シ得

ル方途トシテ苗床等ハ特別ノ施設ヲ施シ萬遺憾ナキヲ期スルヲ要ス

凹地及對斜面ノ利用

本島地形の特質トシテ處々凹地散在シ且地味肥沃ナルヲ以テ活眼



河津  
水  
不  
引  
三  
入  
三  
三  
三  
三  
三  
三  
三

折根  
防  
止  
爲  
支  
柱  
ヲ  
設  
ク  
根  
本  
ニ  
培  
土  
ヲ  
多  
ク  
ス  
繁  
植  
支  
障  
ヲ  
阻  
礙  
セ  
ル  
ヲ  
防  
止  
ス  
爲  
シ  
メ  
ス  
又  
ハ  
莖  
ト  
葉  
ヲ  
横  
掃  
樹  
算  
葉  
ヲ  
包  
ミ  
結  
束  
ス  
以  
テ  
葉  
ヲ  
乾  
乾  
シ  
テ  
除  
キ  
去  
リ  
タ  
ル  
ヲ  
防  
止  
ス  
爲  
シ  
メ  
ス  
又  
ハ  
葉  
ノ  
下  
ニ  
草  
藪  
ヲ  
掃  
キ  
去  
リ  
タ  
ル  
ヲ  
防  
止  
ス  
爲  
シ  
メ  
ス  
又  
ハ  
葉  
ノ  
上  
ニ  
草  
藪  
ヲ  
掃  
キ  
去  
リ  
タ  
ル  
ヲ  
防  
止  
ス  
爲  
シ  
メ  
ス  
又  
ハ  
葉  
ノ  
間  
ニ  
草  
藪  
ヲ  
掃  
キ  
去  
リ  
タ  
ル  
ヲ  
防  
止  
ス  
爲  
シ  
メ  
ス  
又  
ハ  
葉  
ノ  
周  
圍  
ニ  
草  
藪  
ヲ  
掃  
キ  
去  
リ  
タ  
ル  
ヲ  
防  
止  
ス  
爲  
シ  
メ  
ス

雨  
侵  
サ  
レ  
易  
ク  
作  
物  
ノ  
根  
元  
ヲ  
損  
傷  
ス  
爲  
シ  
メ  
ス  
爲  
シ  
テ  
雨  
ノ  
侵  
入  
ヲ  
防  
止  
ス  
爲  
シ  
メ  
ス  
爲  
シ  
テ  
雨  
ノ  
侵  
入  
ヲ  
防  
止  
ス  
爲  
シ  
メ  
ス

風  
吹  
キ  
ノ  
周  
圍  
防  
風  
林  
ノ  
設  
置  
ヲ  
考  
へ  
樹  
木  
ノ  
植  
植  
ヲ  
考  
へ  
樹  
木  
ノ  
植  
植  
ヲ  
考  
へ

地  
面  
ノ  
防  
風  
林  
ノ  
設  
置  
ヲ  
考  
へ  
樹  
木  
ノ  
植  
植  
ヲ  
考  
へ

雨  
侵  
サ  
レ  
易  
ク  
作  
物  
ノ  
根  
元  
ヲ  
損  
傷  
ス  
爲  
シ  
メ  
ス  
爲  
シ  
テ  
雨  
ノ  
侵  
入  
ヲ  
防  
止  
ス  
爲  
シ  
メ  
ス

風  
吹  
キ  
ノ  
周  
圍  
防  
風  
林  
ノ  
設  
置  
ヲ  
考  
へ

地  
面  
ノ  
防  
風  
林  
ノ  
設  
置  
ヲ  
考  
へ

雨  
侵  
サ  
レ  
易  
ク  
作  
物  
ノ  
根  
元  
ヲ  
損  
傷  
ス  
爲  
シ  
メ  
ス

風  
吹  
キ  
ノ  
周  
圍  
防  
風  
林  
ノ  
設  
置  
ヲ  
考  
へ

地  
面  
ノ  
防  
風  
林  
ノ  
設  
置  
ヲ  
考  
へ

五、甘蔗ヲ軟化裁培法ニヨリ活用セバ絶對ニ鹹雨ノ被害受ラレトナリ且省代用ニ  
 供テ磁養味覺共十分ナリ其栽培法附表第三カシ  
 六、畑地ニモ作的ニ利用シテ土地ノ不足ヲ補フ共勞力ノ輕減ヲ圖ル爲メ耕  
 作法附表第三其一 勞力不足ニ際シテ可運的ニ甘藷ヲ收穫スル爲メ簡  
 便法其ニカシ  
 七、堆肥ノ農作ノ成果ヲ左右シ勞力地力ノ不足ヲ補ヒ收穫期間ヲ短縮ス  
 ンニテ量約ニ格段ノ差ヲ與ヘ其價値ハ大ニテ故ニ耕種者ノ注意ヲ要ス  
 畑耕作ニ比例シテ堆肥ノ首領ニ於テ爾ニ種々ノ肥料ノ施用ニヨリ  
 復活セシメ或ハ被害ヲ受ラレタル畑地ヲ増進スル爲メニ注意スル  
 對策ヲモシムルハカラス堆肥ノ造方耕種者ノ注意ヲ要ス  
 島民博覽會農家等ハ本島水産ノ盛衰ニ注意スルニ當リ

スルヲ要ス 各種野菜類ノ適期一覽表附表第一カシ

五、甘蔗ヲ軟化裁培法ニヨリ活用セバ絶對ニ鹹雨ノ被害受ラレトナリ且省代用ニ

供テ磁養味覺共十分ナリ其栽培法附表第三カシ

六、畑地ニモ作的ニ利用シテ土地ノ不足ヲ補フ共勞力ノ輕減ヲ圖ル爲メ耕

作法附表第三其一 勞力不足ニ際シテ可運的ニ甘藷ヲ收穫スル爲メ簡

便法其ニカシ

七、堆肥ノ農作ノ成果ヲ左右シ勞力地力ノ不足ヲ補ヒ收穫期間ヲ短縮ス

ンニテ量約ニ格段ノ差ヲ與ヘ其價値ハ大ニテ故ニ耕種者ノ注意ヲ要ス

畑耕作ニ比例シテ堆肥ノ首領ニ於テ爾ニ種々ノ肥料ノ施用ニヨリ

復活セシメ或ハ被害ヲ受ラレタル畑地ヲ増進スル爲メニ注意スル

對策ヲモシムルハカラス堆肥ノ造方耕種者ノ注意ヲ要ス

島民博覽會農家等ハ本島水産ノ盛衰ニ注意スルニ當リ

シテ栽培スルヤ方策ヲ自ラ体験シ相苗信スニ足ルヘキモノアルヲ以テ積極的ニ其要領ヲ見做シ亦督勵シテ多ク收穫ヲ計リ其供出ニヨリ減收ヲ補フ事々々圖ラハ要トス

九其他

イ豫備種子ニ倍ノ二倍ヲ保有スルヲ要ス

ニ種屋手報ハ突發ニ非ラヤル限リ概ネ五日前ニ發セラルヲ以テ(觀測

所)即座情報(室)機ヲ失セス處置スルヲ要ス

十牧牛管理上ノ注意

軸ニシテ

兩本並行理的二着氣加ハリ毎年六月七月が最ニ牛ノ管理上損耗ヲ生ス

愛護スルヲ要ス

之カ爲ニ注意事項セノ如シ

此ノ如キ  
ノ事ハ  
ハシ  
ハシ  
ハシ  
ハシ

漸涼

方名ト云

風ト云

カク一打

見服所

手取

一餌料六頭平均十食以上日廻休給

二使役前後六時食水着半飯混入一斗量飲

三取手車間及夕刻時使用之食天下二階候

四口元地候下候事出ス候方

五使用

六

七

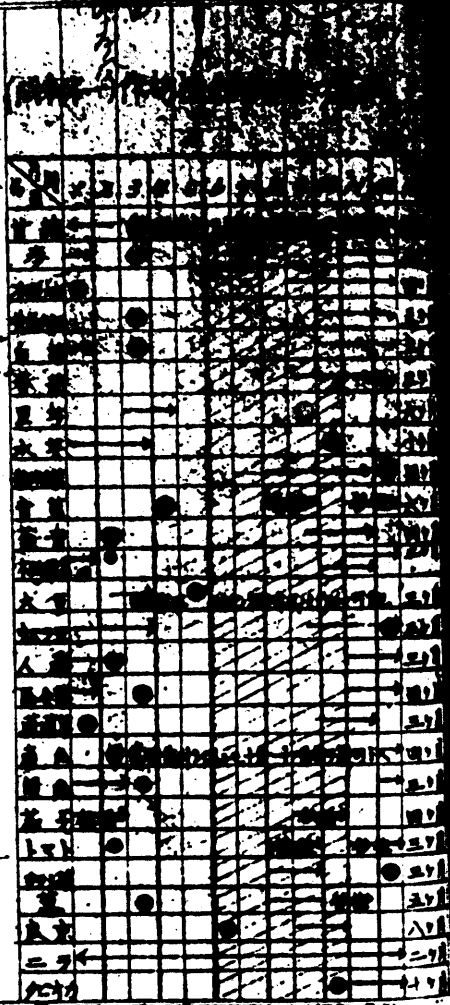


備考

一平均通期ヲ示ス但ニ管理上今ニ適合せず故ニ早期ヲ

二印ハ收穫初ニ月ヲ示ス青斜線ハ颱風期ヲ示ス

三播種又收穫時期克ク研究セテ自ラ被害ヲ減サシ得



附表第三

甘蔗、軟化栽培法

説明

1. 從來、甘蔗、畦（一）ヲ以テ示ス、兩側、Xノ位置、鋤  
カケル、其、六（）ヲ以テ示セル方ニ耕ヤサル

2. 鋤分、清、加（）ノ跡、ニ施肥ス

3. 整後、兩側、母茎、中心、至、再、ニ續テスル、其、高サ

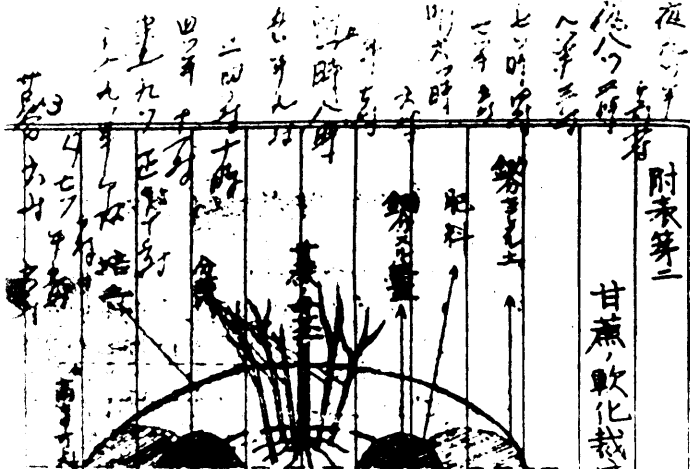
應、分、葉、ニ、養育ス

4. 母茎、根、施肥、培土、ニ、數本、分、葉、生、ニ、概、下、四

十日、程度、食、用、ニ、供、セ、ラ、ル

5. 二年、地、ヲ、選、定、ス、ル、ト

6. 本、部、於、テ、其、要、領、ヲ、具、體、的、ニ、實、施、ス



畑地ヲ有創ニ利用スル爲メ

説明

四畝ニ耕ス

甘藷五月植ト十一月以降逐次收穫得ル

一畝麥十一月外適期ヲ畦中間ヲ利用シ播種ス

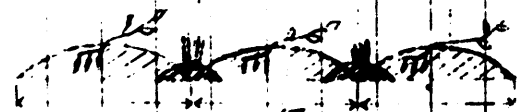
麥概米三丁四月初旬迄ニ收穫シ得ルヲ以テ次ハ甘藷

ノ畦後ノ輕ク鋤ク入レ要スレバ若干施肥ニテ上ニ

月植ニ適スレ豆類南瓜人蔘茄子等ヲ植付ケル

特徴運作ノ終ヲ除キ直射日光ヲ遮取ニテ保護

ヲ保月人



河上四畝ニ耕ス

附表第三

甘藷間作付法一案

長八寸 四本 片七寸

説明

牛敷の勞力不足スルモ早ク植付ヲ實施シ早期收穫ヲ計リ  
併テ鐵雨被害ヲ防止セシカ爲一案トシテ記要領ニ依ル可

1. 甘藷ヲ植付ケル個所ヲ鐵ヲ敷ケタル後苗ハ少クモ七節  
以上ヲ埋ルコト

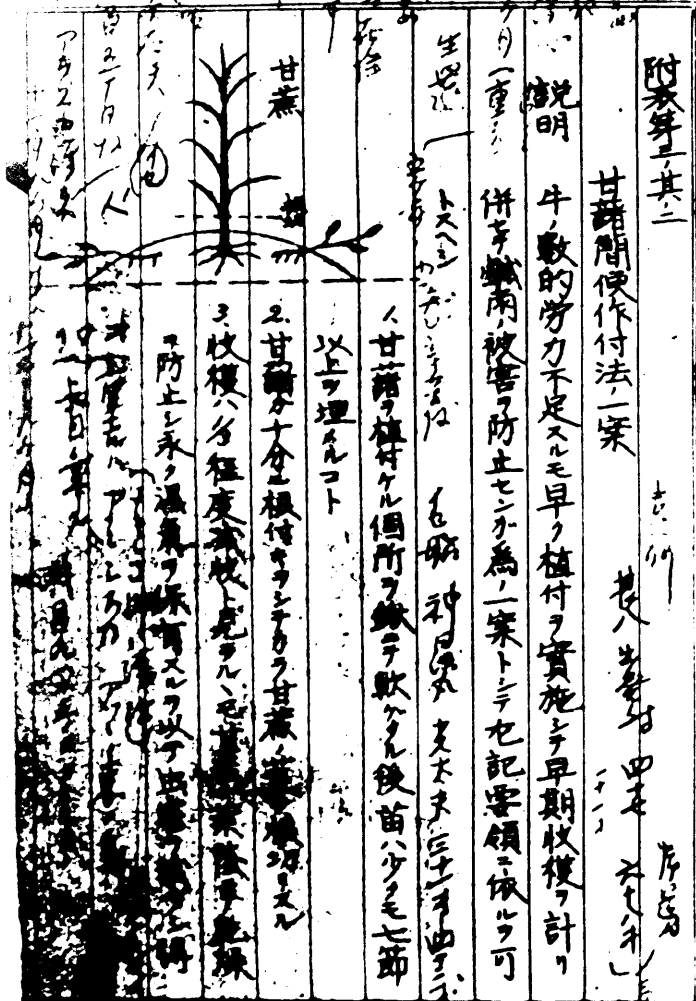
2. 甘藷十分全根付キテモ甘藷ノ葉ハ刈取ラズ

3. 收穫ハ分程度ニ依リて是ラレモ甘藷ノ葉ハ刈取ラズ

4. 防上ニ承ク濕氣ヲ保育スルコト以テ甘藷ノ葉ハ刈取ラズ

5. 甘藷ノ葉ハ刈取ラズ

6. 甘藷ノ葉ハ刈取ラズ



Handwritten notes and numbers in the top margin, including '十七' and '二十'.



附表第四

堆肥製造法

南オランダの十名一島大島

一 説明

堆肥ハ厩肥トニ区分スル即チ堆肥ハ家畜糞ノ糞尿混入チ人工的ニ  
金肥及人肥ヲ用テ作ルモラ稱シ厩肥ハ家畜糞ノ糞尿混入チ  
入シ寝草等踏ミシメヨリ自然ニ腐敗トシ出来ルモノヲ稱ス

二 堆肥

原料 甘蔗、葉雜草及落葉、硫酸、石灰、人糞、皮骨粉、骨粉、  
硫酸、石灰、或ハ人糞ヲ輕ク攪キ其上ホ原料ヲ積置キ之ヲ交互ニ積置キテ  
入シモ可ナリ、濕氣下原料ヲ利用スルニ勉ムルニ注意シ、濕氣下原料ヲ積置キテ  
腐敗程度ヨリ使用ス、夏季ハ腐敗ノ爲メ、糞尿ノ積置キテ、糞尿ノ積置キテ、  
腐敗程度ヨリ使用ス、夏季ハ腐敗ノ爲メ、糞尿ノ積置キテ、糞尿ノ積置キテ、

三 厩肥

右ニ準ス、家畜管理上糞尿ノ汚清ニシテ粗皮ニ應ジテ常ニ糞尿ノ積置キテ、  
十分ニ其ノ注意ヲ要ナリ、約ニヶ月後積置キテ糞尿ノ積置キテ、

南オランダの十名一島大島  
附表第四  
堆肥製造法  
一 説明  
堆肥ハ厩肥トニ区分スル即チ堆肥ハ家畜糞ノ糞尿混入チ人工的ニ  
金肥及人肥ヲ用テ作ルモラ稱シ厩肥ハ家畜糞ノ糞尿混入チ  
入シ寝草等踏ミシメヨリ自然ニ腐敗トシ出来ルモノヲ稱ス  
二 堆肥  
原料 甘蔗、葉雜草及落葉、硫酸、石灰、人糞、皮骨粉、骨粉、  
硫酸、石灰、或ハ人糞ヲ輕ク攪キ其上ホ原料ヲ積置キ之ヲ交互ニ積置キテ  
入シモ可ナリ、濕氣下原料ヲ利用スルニ勉ムルニ注意シ、濕氣下原料ヲ積置キテ  
腐敗程度ヨリ使用ス、夏季ハ腐敗ノ爲メ、糞尿ノ積置キテ、糞尿ノ積置キテ、  
腐敗程度ヨリ使用ス、夏季ハ腐敗ノ爲メ、糞尿ノ積置キテ、糞尿ノ積置キテ、  
三 厩肥  
右ニ準ス、家畜管理上糞尿ノ汚清ニシテ粗皮ニ應ジテ常ニ糞尿ノ積置キテ、  
十分ニ其ノ注意ヲ要ナリ、約ニヶ月後積置キテ糞尿ノ積置キテ、

大東島家畜調査表

昭和二十七年七月

種別	牛	馬	猪	羊	鶏	魚	鳥	家畜
計	三	四	三	三	三	三	三	三
牛	〇	〇	一	二	三	四	五	六
馬	〇	〇	一	二	三	四	五	六
猪	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
羊	〇	一	〇	一	二	三	四	五
鶏	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
魚	三	四	三	三	三	三	三	三
鳥	三	四	三	三	三	三	三	三
家畜	三	四	三	三	三	三	三	三

大東島家畜調査表

昭和二十七年七月

下子行

總計	小計	合計	...	...	...	...
五	三	六	二	八	八	...
八	二	一	六	九	五	...
五	五	...	...	...	...	...
五	六	...	...	...	...	...
三	一	...	...	...	...	...
五	六	...	...	...	...	...
五	六	...	...	...	...	...
八	一	...	...	...	...	...
六	一	...	...	...	...	...
六	一	...	...	...	...	...
九	三	...	...	...	...	...
二	...	...	...	...	...	...

右行地...  
 神田...  
 天...  
 三...

家畜類増殖目途計算表

合本計	本部	杉木部 (五ヶ所)		西地		東地		南地		區分
		天	早	天	早	天	早	天	早	
七五	二一	二	三	七	二	二	六	七	四	牛
四九	七	一	二	五	一	七	二	五	一	馬
二三	。	。	二	。	三	五	六	一	六	猪
二五	。	。	二	。	三	五	六	一	六	鶏
七	一	。	。	。	二	。	三	。	一	魚
四二	六	。	。	。	二	。	八	。	六	山
五	一	。	三	四	四	五	五	七	五	草
一六	三	。	九	一	一	一	五	二	七	羊
一七	二	。	一	二	。	二	五	三	四	牛
五七	六	。	五	六	。	六	五	九	二	馬
一四	一	。	一	五	。	三	三	四	五	鶏
五二	五	。	。	。	六	二	四	五	。	魚

備考 一 海軍部隊ハ石基率ニ據リ増殖スルモノトス 二 最良ノ飼育管理ニ於ケル本年後半ヨリ明二十一年度用ニ 一上ノ増殖回途教ヲ示ス	昭和二十年八月十日
	回一 五〇% 増産
	上以テ
	回二 頭五=回一
	昭和二十年八月十日
	回二年 頭五=回一
	上以テ
	回二年 頭五増産
	昭和二十年六月十日
	回二年 頭五増産
教信三ノ教現 倍十ハ以テ	
倍十ノ教現	

増殖	回一	五〇%
増殖	回二	頭五=回一
増殖	回二年	頭五=回一
増殖	回二年	頭五増産
増殖	回二年	頭五増産
増殖	教信三ノ教現	倍十ハ以テ
増殖	倍十ノ教現	

(表) 種子量算出基準表

1-1-1-1-1-1 (號) 麥類所產種子量算出表

一人日量 150g 除與分量 1g

一人一年間 所產量  $150g \times 365 = 54,750g$

豫想收穫高及寬 2 級 (120株) 1 及 1 1/2

一人當 1 所產供付面積 8  $54,750 \div 120 \text{株} = 456 \dots \dots g$

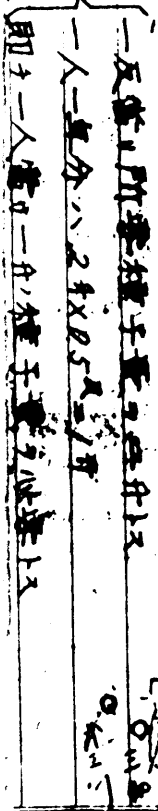
即 5 約 5 畝 以上 產 1 又

一反當 1 所產種子量 2 級 1 又

一人 1 畝 分 1/2  $4 \times 0.5 = 2g$

即 1 一人當 1 畝 1 種子量 2 級 1 又

種子所產量





大正十一年

昭和廿二年夏ノ種子量ヲ(ノ流)ノ借即チニ外周

種子量ノ(2號)ニ亦不敷

味濃 醤油製法ニ(2號)ニ亦不敷

味濃 醤油製法ニ(2號)ニ亦不敷

味濃 醤油製法ニ(2號)ニ亦不敷

味濃 醤油製法ニ(2號)ニ亦不敷

味濃 醤油製法ニ(2號)ニ亦不敷

味濃 醤油製法ニ(2號)ニ亦不敷

味濃 醤油製法ニ(2號)ニ亦不敷

味濃 醤油製法ニ(2號)ニ亦不敷

味濃 醤油製法ニ(2號)ニ亦不敷

味濃 醤油製法ニ(2號)ニ亦不敷

味濃 醤油製法ニ(2號)ニ亦不敷



中隊單位，所需耕作面積標準表

1. 一人日量 1800 呎 (480 畝)

2.  $480 \times 365 = 175200$  畝 (一年量)

3.  $1752 \times 150 = 262800$  畝 (14 中隊平均人員)

4. 一及三，平均收穫量 300 畝

5. 年三回收穫量 600 畝

6.  $26280 \div 600 = 438$  畝 (14 中隊所需耕作面積)

7.  $438 \times 3 = 1314$  畝 (三倍量，耕作面積)

8.  $1314 \times 2 = 2628$  畝 (蔬菜耕作面積)

9.  $1314 + 2628 = 3942$  畝

即 4 14 中隊，耕作面積 21 畝 9 畝 2 畝 2 畝 2 畝 2 畝

三才... 候天翁... 其奈...

月... 下... 合...

結... 而... 三...

四... 二...

各... 之...

指...

各...

折...



27108  
240

現地自治生活

発行年  
頁数  
大表

著者名 大東野村隊長 陸軍佐 田村権一

発行所

州 著 貸 付 運 納  
所 属 種 級 氏 名 年月日 借用者印 年月日 受領者印

伊 藤 常 雄 41.2.1

神 252

大東野村隊長

現地自治

月 日記 付録

貸出中

著者及書名

現